

「とくしま障がい者雇用促進行動計画（第6期）」（素案）に係るパブリックコメントの募集結果について

令和5年3月8日（水）から令和5年4月7日（金）まで、「とくしま障がい者雇用促進行動計画（第6期）」（素案）についてパブリックコメントにより御意見を募集したところ、11名の方から11件の御意見、御提言をいただきました。御意見の趣旨と県の考え方は次のとおりです。

No.	御意見の趣旨	県の考え方
1	障がいや要支援の程度に合わせて、インターンシップの機会を増やし、マッチングの確率を高めることが必要だと思います。	県では関係機関と連携し、障がい特性に応じた職業訓練や就業体験の実施、マッチングの支援に努めているところです。 いただいた御意見につきましては、今後の施策を進めるうえでの参考とさせていただきます。
2	個人の特性を活かす職場の開発や訓練プログラムを作成し、障がいがあっても取得できる国家資格等を積極的に取得することを促進し、企業に必要な人材となることで雇用の機会を増やせるのではないかと考えます。	e-ラーニングをはじめ、オンライン訓練や通所訓練、家庭訪問等受講者の障がい特性に配慮しながら、障がい者の職業能力の開発に努め、就労の促進を図って参ります。
3	目指すべき姿として、「障がいのある人の働きたいを実現し、いきいきと働き続けることのできる社会を構築します。」には、共感します。 共生社会の実現に向けて、個人・地域・事業主・行政の連携が重要であり、まずは、地域での交流の場の提供として、障がい者だけではなく、障がいのあるなし、性別、年齢をとわず、誰もが参加できる ・障がい者スポーツ ・障がい者芸術文化活動 等を実施、継続することで社会参加につながると考えます。 障がい特性の理解に加え、障がい者各々の特性に応じたマッチングが必要となることから、課題にも記載されているように「障がい特性の理解」については、各々に関係団体等の連携が必要だと考えます。	県では、スポーツや芸術文化を通じた障がいのある人とない人の交流を促進し、県民の障がいへの理解と認識を深めるため、障がい者スポーツや芸術文化活動による交流促進事業を実施しているところです。引き続き関係機関と連携し、障がい特性の理解促進に取り組んで参ります。
4	情報の取得、コミュニケーションに対する支援について 私は聴覚障がいがあり、就労時は補聴器だけで勤務していました。聴力の個人差もあり、同僚はどのように配慮すればよいのか見当がつかないようでした。ゆっくり話を伝えてくれると聞こえる人、全く聞こえない人は紙に書いて伝える方法を理解して伝えてくれました。当事者は遠慮があり、聞こえにくいことを伝えられずにあります。勇気を持って聞こえにくいことは伝えて欲しいと思います。そうすることで、お互いが仕事しやすくなるということを当事者も知ってほしいと思います。 県民が広く聞こえの問題を理解すれば解決すると思いますが、「障がいがある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」が広く県民が理解しているとは思えない状況だと感じます。マスク越しの声は、どんなに張り上げても明瞭には聞こえません。私たちは口の形を読み取り、言葉を理解していることもあります。コロナ禍でマスクが日常になり本当に不便な日々を強いられてきました。今一度、この条例を学ぶ機会を県民に与えて欲しいと思います。関係ないと思っている人も、やがては歳をとり聞こえが悪くなります。自分のためにも学んで、仕事をしたいと思っている障がい者に寄り添っていただきたいと思います。	県民の皆様へ、聴覚障がいをはじめとした様々な障がいについての特性や条例の理念等を理解いただくため、研修・イベント等の機会を活用し、積極的に啓発を進めるとともに、県ホームページやパンフレット、ポータルサイト「とくしま障がい者雇用NAV I」により、情報を発信して参ります。

No.	御意見の趣旨	県の考え方
5	<p>仕事柄、障がいを持つ学生の進路について関わるがありますが、就労機会を確保するためには、雇用側企業の理解が重要だと思います。行政から企業側に積極的に働きかけ、企業の採用担当者へセミナーを開催するなどにより、支援をしていただきたいです。</p>	<p>県では、関係機関と連携し、企業の担当者向けの各種セミナーを実施しております。今後も企業への積極的な働きかけにより、障がい者雇用を促進して参ります。</p>
6	<p>10年前に比べて、精神障がい者の就職件数が大幅に増えているようですが、精神障がいはひとり一人に合わせて、どういった環境を整えればよいか異なるなどの理由により、他の障がいよりも対応が難しいと思われまます。企業、障がい者の双方が気軽に相談でき、環境整備のサポートを受けられるような窓口があればよいと思ひます。</p>	<p>県では、徳島労働局との共催により、「精神・発達障がい者しごとサポーター養成講座」を開催し、精神・発達障がい者にとって働きやすい職場環境づくりを推進しています。また、地域障害者職業センターやハローワークと連携し、企業・精神障がい者の方双方への支援について取り組んで参ります。</p>
7	<p>障がい者を雇用し、安心して働いて頂くには、サポートを行う社員や、心理士などの専門家を確保することが望ましいですが、中小・小規模事業者にとってはハードルが高いです。何か支援していただける仕組みがあればよいと思ひます。</p>	<p>事業所の状況に合わせて、国の助成金制度の情報提供や有効活用について推進して参ります。 いただいた御意見につきましては、今後の施策を進めるうえでの参考とさせていただきます。</p>
8	<p>現状の障がい者雇用が進まない理由の一つに通勤問題があります。少子高齢化の影響が特に強い郡部の労働人口の少ない地域での募集は、障がい者としての働き手がいなないため、遠隔地からの採用を余儀なくされます。公共交通網の脆弱な徳島県では、マイカー通勤が求められることとなりますが、障がい者の運転免許証取得者は少ないため、雇用に繋がらないのが現状です。 今後法定雇用率の引き上げ、除外率の引き下げにより、通勤問題はますます顕著となりますので、障がい者雇用を促進するため、就業地域での住宅確保や通勤手段の手当などの支援について、ご検討をお願いします。</p>	<p>通勤の課題を抱えている地域の状況に合わせて、国の助成金制度の情報提供や有効活用について推進して参ります。 いただいた御意見につきましては、今後の施策を進めるうえでの参考とさせていただきます。</p>
9	<p>いろいろな業種の雇用を促進してほしい。</p>	<p>さらなる雇用の場の確保のため、企業に向けて各種支援制度の周知を図るとともに、テレワークの導入等デジタル技術の活用による職場環境の整備支援を行うことにより、様々な業種での雇用を促進して参ります。</p>
10	<p>コロナが明けて、旅行割が始まり、たいへん忙しくなりましたが、人材不足で困っています。障がい者雇用が気になりますが、今は1人1人が自分のことだけでいっばいなので、障がい者に付き添ってお仕事をゆっくり丁寧に教える余裕がありません。人材不足がどうにかなれば、障がい者雇用ももっと増えると思ひます。</p>	<p>少子高齢化による働き手の減少が課題となる中、障がい者がその特性に応じて活躍でき、多様な人が共に働くことが当たり前となる職場環境の実現に向け、取り組んで参ります。</p>
11	<p>私は仕事柄、障がい者施設の職員さんとの関わりがよくあります。また、利用者さんとふれあう機会もあります。今、農業などの分野でも積極的に障がい者の方を受け入れる事業があり、行政も動いている感をもっております。他にもいろいろな業種で働く事が出来ると思ひます。 行政が直接、事業所様の所へ足を運び、障がい者連合会等と連携を図っていただきたいです。今後、障がい者の方が一人になっても安定した生活が送れる様、徳島県の事業者様の理解をはかれる様、行政が橋渡しとなつていただく事を期待します。</p>	<p>行政が橋渡し役となり、きめ細やかな就労支援を実施し、障がい者雇用の促進を図って参ります。</p>